



2022年3月期第1四半期

決算説明補足資料

2021年8月13日

株式会社アイ・ピー・エス

証券コード 4390

企業理念

OPEN DOOR

私たちは、いまだ誰も突破できていない障壁のある生活に密着した分野で、誰よりも先んじて事業機会を創造し、事業を展開し、産業構造を変え、あるべき社会を実現してまいります。

当社グループでは、フィリピンにおいて、最先端の通信技術を活用した通信サービスを提供することにより、フィリピン経済の発展に貢献するため、積極的な投資を行い、事業の拡大を図っております。



四半期決算概要

売上高：1,961百万円 営業利益：370百万円

事業状況

C2C回線など自社長期管理・保有回線の投資と販売を順調に進め、レーシック施術の増加により医療・美容事業が回復し増収・増益。

今期業績予想

売上高：11,100百万円 営業利益：2,400百万円

※変更なし

1 | 2022年3月期第1四半期 決算概要

【2022年3月期第1四半期 連結実績】

(単位：百万円)

	2021年3月期				2022年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	前年同期比	通期予想	進捗率	
売上高	1,813	1,559	3,935	2,207	1,961	147 8.1%	11,100	17.7%	
営業利益	325	299	1,100	195	370	45 13.9%	2,400	15.4%	
経常利益	286	283	1,001	616	381	95 33.2%	2,400	15.9%	
親会社株主に帰属する当期純利益	193	198	713	381	218	24 12.8%	1,650	13.2%	

2022年3月期第1四半期 実績分析

- 売上高：フィリピン国内通信事業及び医療・美容事業が増加したことにより、前年同期比8.1%増加。
- 営業利益：フィリピン国内通信事業及び医療・美容事業が増益になったことにより、前年同期比13.9%増加。
- 経常利益：為替差益を11百万円計上（前年同期は31百万円為替差損を計上）したことにより、前年同期比33.2%増加。
- 親会社株主に帰属する当期純利益：経常利益の増加により前年同期比12.8%増加。

■ 海外通信事業

	2021/3 1Q	2022/3 1Q	前年同期比 (単位：百万円)
売上高	422	382	▲39 (▲9.4%)
営業利益	146	43	▲102 (▲70.0%)
利益率	34.8%	11.5%	—

C2C回線の新規契約案件は計画通り積み上がってきておりますが、当第1四半期には大口顧客向けのリース案件がC2C回線への切替により売上計上が年1回下期になったことなどにより、減収、減益となる。

(ご参考) C2C回線の積み上げ状況 ※単位：月平均増加率 (CMGR)

対象	2021年1月~3月のCMGR実績	2021年1月~6月のCMGR見通し	2021年1年間でのCMGR計画
契約社数	26.5%	22%	27%
提供中帯域	3.6%	23%	24%

C2C回線の契約社数、提供中帯域の増加率は、1月~6月迄を見ると、1年間での計画に近いペースで推移。

※当社と海外子会社で決算月が異なる為、4月~6月の分は見通しとしています。

■ フィリピン国内通信事業

	2021/3 1Q	2022/3 1Q	前年同期比 (単位：百万円)
売上高	211	301	89 (42.4%)
営業利益	10	87	76 (703.6%)
利益率	5.1%	28.9%	—

コロナウイルス感染症の影響によりマカティ市での法人向けインターネット接続サービスの新規契約が低調に推移するものの、C2C回線関係の売上などにより、増収・増益となる。

■ 国内通信事業

	2021/3 1Q	2022/3 1Q	前年同期比 (単位：百万円)
売上高	989	1,019	29 (3.0%)
営業利益	141	158	16 (11.9%)
利益率	14.3%	15.6%	—

AmeyoJ及び秒課金サービスを組み合わせたコールセンターソリューションサービスが引き続き好調に推移。
また引き続きWeb会議などの通信トラフィックの需要も拡大し、増収増益となる。

■医療・美容事業

	2021/3 1Q	2022/3 1Q	前年同期比 (単位：百万円)
売上高	167	246	78 (47.1%)
営業利益	39	83	43 (110.9%)
利益率	23.6%	33.8%	-

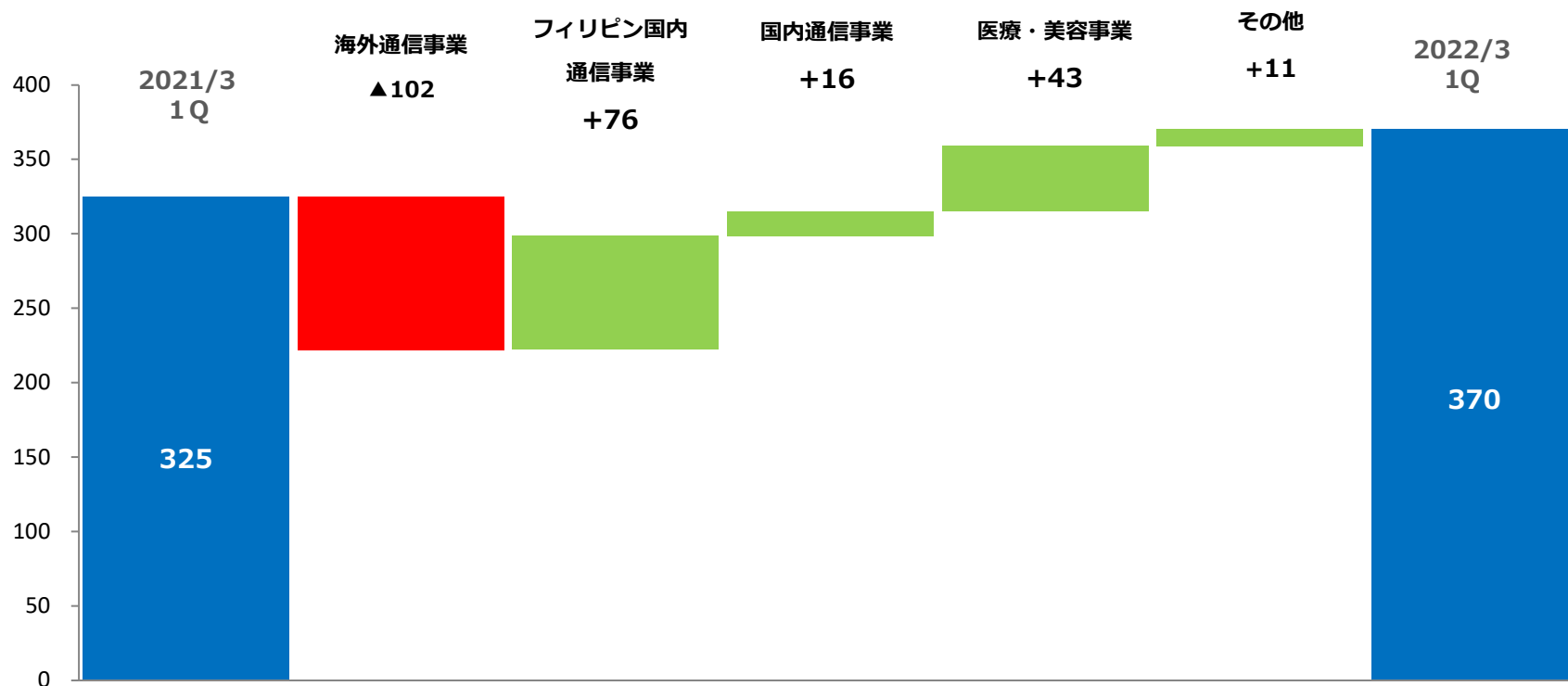
コロナ禍における安全な運営を徹底することにより、レーシックの提供が拡大し、増収・増益となる。なお、前期はコロナウイルス感染症の影響により3月中旬に休業したことから減収、減益となった。

■その他 (旧 在留フィリピン人関連事業)

	2021/3 1Q	2022/3 1Q	前年同期比 (単位：百万円)
売上高	22	11	▲11 (▲49.1%)
営業利益	▲13	▲2	11 (-)
利益率	-	-	-

2021年1月に、人材関連事業から撤退したことにより、規模が縮小したことにより報告セグメントから除外。フィリピンのコールセンターから送金斡旋などの勧誘を実施。

フィリピン国内通信事業及び医療・美容事業が増益に寄与



連結貸借対照表（サマリー）

（単位：百万円）

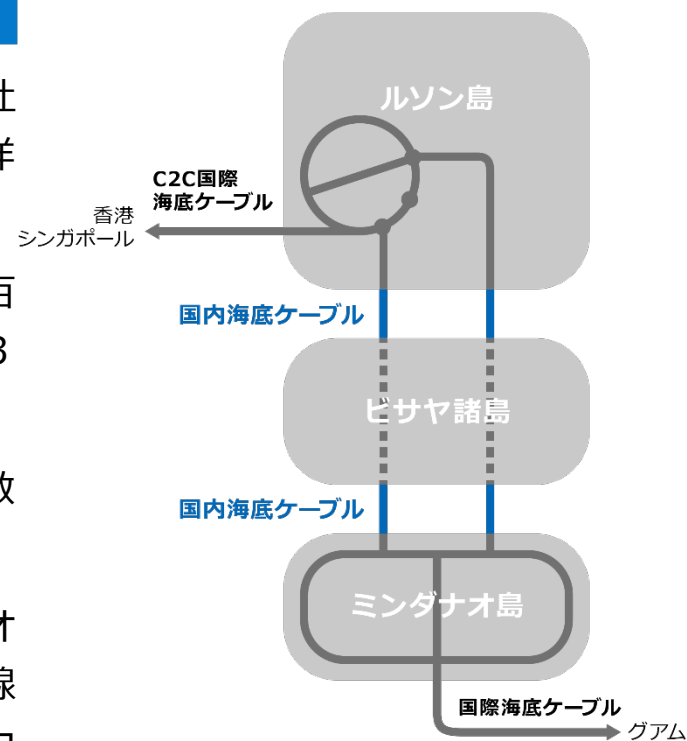
資産の部				負債・純資産の部			
	2021年3月期末	2022年3月期 1Q	増減		2021年3月期末	2022年3月期 1Q	増減
流動資産	7,665	8,529	863	流動負債	3,361	3,744	382
現金及び預金	3,625	3,731	105	買掛金	701	617	▲ 84
売掛金	1,091	1,265	173	借入金	518	893	375
リース投資資産	2,327	2,768	441	その他	2,141	2,233	92
その他	620	763	142	固定負債	1,645	1,816	170
				長期借入金	1,431	1,545	113
				その他	214	271	57
固定資産	4,096	4,187	91	負債合計	5,007	5,561	553
有形固定資産	2,510	2,541	30	純資産	6,754	7,155	400
無形固定資産	829	867	37	株主資本	5,332	5,427	94
投資その他資産	755	778	22	累積包括利益	▲ 26	140	167
				新株予約権	210	210	0
				非支配株主持分	1,238	1,362	123
資産合計	11,762	12,716	954	負債・純資産合計	11,762	12,716	954

2 | 2022年3月期第1四半期 Topics



フィリピン国内での海底ケーブルについて

- 当社子会社のInfiniVAN, Inc.は、フィリピン国内の通信事業者2社と共同で国内の海底ケーブルシステムの建設を計画し、現在、海洋調査中。
- 工事区間は24区間、総投資額は約120百万ドル（約12,480百万円）見込み。負担割合は三社均等とし、当社グループではその3分の1を負担予定（詳細は、2021年2月19日に開示）。
- 新型コロナウイルス感染症の影響などで遅れがあるが、2022年の敷設完成を目指す。
- 敷設により、ルソン島の回線に加え、別途構築中であるミンダナオ島やパナイ島の回線がつながり、国内を貫通するバックボーン回線となる。当社グループの提供サービスのフィリピン国内での人口カバー率は96%に達する見込み。
- この国内バックボーン回線は、昨年利用開始したC2C回線とつながり、今後益々膨大になるトラフィックが、香港やシンガポールに流れるようになる。



使用中の海洋調査船



基地局の調査中

- 法人ならびに個人向けの、有線と無線、5Gと4Gの併用を視野に
入れた、快適な通信サービスの提供を構想。
- 当社子会社のInfiniVAN社は、2017年の事業開始以降、マニラ首
都圏の特に経済集積地での光ファイバー網の敷設を継続。
- 2019年6月、続いて2020年1月に、5G専用の周波数帯の割り当
てを受ける。
- 2021年2月には、5Gサービスの提供のために必要不可欠な4Gの
周波数帯の割当を新たに受ける。
- 現在、マニラ首都圏の商業地域で、5Gの基地局を設置した実証実
験を開始する為の最終調整中。

日本の国内通信事業では、コールセンター事業者など向けの、自動架電や顧客管理を統合するシステム（AmeyoJ）と、格安通話料金サービス（秒課金フリーダイヤルサービス）をパッケージした、トータルソリューションが好調。

- AmeyoJは、他社のシステムと連携するAPIを圧倒的に多く持ち、早期導入が可能。
- これに、秒単位で課金するフリーダイヤルサービスを組み合わせ、営業とエンジニアが一体で最適なプランをコンサルティング提案。
- 現在、新型コロナウイルスワクチン接種の予約関係の事業者にも貢献中。



- フィリピンでの新型コロナウイルスの影響が続く中、顧客やスタッフの安全を第一にし、外出などの規制レベルの随時の変化に適応。
- 顧客の根強いサービスニーズに支えられ、対応サービスの種類や対応顧客数を随時調整しながらも、営業を継続。
- 昨年ボニファシオグローバルシティ (BGC) に開院したレーシック専用の第3院も、業績に貢献。



オルティガス院



マカティ院



BGC院

会社名
(英文社名)

株式会社アイ・ピー・エス
IPS, Inc.

設 立

1991年10月

本社所在地

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル8階

事業内容

海外通信事業：フィリピンのCATV事業者等に国際通信回線を提供

フィリピン国内通信事業：フィリピン国内での法人向けISPの提供

国内通信事業：日本国内での通信サービスの提供

医療・美容事業：フィリピンでの医療・美容サービスの提供

グループ企業

連結子会社

KEYSQUARE INC.

Shinagawa Lasik & Aesthetics Center Corporation

InfiniVAN, Inc.

ISMO Pte. Ltd.

- ▶ 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ▶ 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ▶ 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ▶ 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

《IRに関するお問い合わせ先》

株式会社 アイ・ピー・エス
〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1
東劇ビル8階

TEL: 03-3549-7719 FAX: 03-3545-7331